

---

 学 会 記 事
 

---

## 第41回新潟画像医学研究会

日 時 平成11年6月5日(土)

14:00~18:00

会 場 ホテルイタリア軒

## I. 一 般 演 題

## 1) 小型肺腺癌内の空洞の意義

古泉 直也	木原 好則	(新 潟 大 学)
酒井 邦夫	斎藤 友雄	
森田 哲郎	奥泉 美奈	(放射線科)
楚山 真樹		(同 第二外科)
大和 靖		(同 第二病理)
内藤 眞		(長岡赤十字病院)
江村 巖		(病理)
相馬 孝博		(厚生連長岡中央綜 合病院 胸部外科)

高分解能 CT で5mm以上の空気濃度を観察され、切除された肺野小型(20mm以下)肺腺癌6例について、高分解能 CT 像とその組織構築について検討し、とくに成因および Noguchi らの分類と対比検討した。Noguchi 分類では A 型; 2, C 型; 2, D 型; 2 で、壁の構造は壁構造のない限局性肺気腫様空洞が3病変(A 型; 1, C 型; 1, D 型; 1)で、線維化を伴う壁が2病変(C 型; 1, D 型; 1)にみられ、限局性間質性肺炎内の腫瘍は C 型の1病変であった。空洞型空気濃度領域自身は組織構築の指標とはならないが、その壁構造は線維化を意味し組織構築を推定する際に考慮する必要がある。

## 2) ヘリカル CT による乳癌診断

—三次元画像による手術シミュレーション—

植松 孝悦	椎名 眞	(県立がんセンター)
小林 晋一	清水 克英	
斎藤 眞理	小田 純一	(新潟病院放射線科)
佐野 宗明	牧野 春彦	(同 外科)
本間 慶一		(同 病理)

【目的】三次元造影ヘリカル CT (HCT) による手術

シミュレーションの結果をもとに選択された手術術式が適切であるかどうかを断端陽性率にて検討して、HCT による手術シミュレーションの有用性を明らかにする。

【対象】新潟県立がんセンターで、術前 HCT 手術シミュレーションをもとに乳房温存術を施行した浸潤癌123例。【方法】乳房温存術式別の断端陽性率を検討した。【結果】断端陽性率は腫瘍切除術 15.5% (13/84)、四分円切除術 17.9% (7/39)、乳房温存術全体で 16.3% (20/123) であった。この結果は、一般に報告されている乳房温存術の断端陽性率よりも低い。【まとめ】HCT による手術シミュレーションは乳房温存術の適格者選定に有用である。

## 3) 人間ドックにおける甲状腺癌超音波検査

吉田美代子	椎谷 洋子	(新潟県労働衛生医学)
佐藤 照美	佐野 有希	
富山 宏美	新妻 伸二	(協会)
筒井 一哉		(筒井内科クリニック)

【目的】人間ドックの超音波検査範囲を拡げて13ヶ月になるが、その検査結果を報告する。

【方法】われわれの人間ドックの超音波検査は胆・肝・脾・腎・脾を主体としていたが、94年より一部、97年12月よりドック全体に頸部より下腹部まで検査範囲を広げた。

【結果】発見された悪性疾患は25例で、胃 X 線検査での胃癌、胸部 X 線による肺癌、便潜血による大腸癌より多くなった。うち甲状腺癌は20例であった。対ガン協会45万件の視触診で1万人対4人の発見率に比し29人7倍に達した。94年よりの50例の甲状腺癌を分析すると、日本超音波学会の診断基準案はあまり信頼できず、疑わしい例は生検する必要があると思われた。t4症例が多くより小さな腫瘍も精検する必要があるようである。

## 4) 肝細胞癌門脈内腫瘍栓症例の遡及的検討

加村 毅	木村 元政	(新 潟 大 学)
関 裕史	吉村 宣彦	
高野 徹	高木 聡	(放射線科)
酒井 邦夫		(長岡赤十字病院)
山本 哲史	尾崎 利郎	(放射線科)

【対象】門脈腫瘍栓23例24腫瘍栓(診断基準: CT・MRI の造影平衡相で門脈枝に低濃度・信号域が認められ、かつ(1)組織学的診断があるか、(2)当該部分が